

RESAS

を分析してみよう

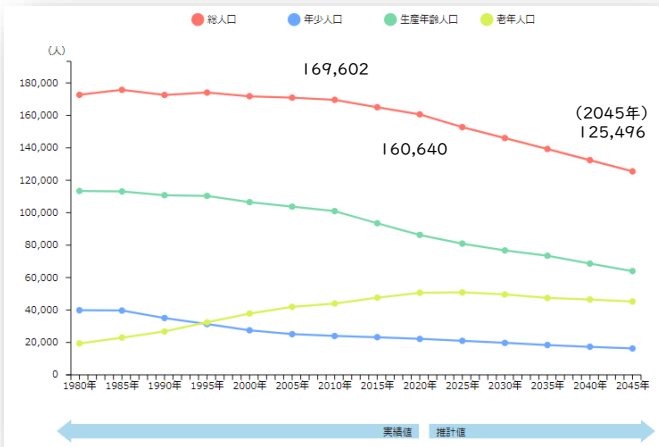
宮崎県
都城市

RESAS (地域経済分析システム) は、地域経済に関する様々なデータ (産業の強み、人の流れ、人口動態など) をグラフで分かりやすく「見える化 (可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



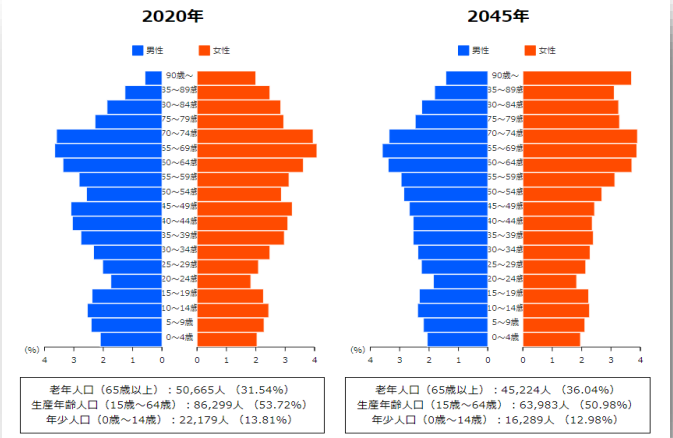
年齢別人口推移

2020年の人口は総人口160,640人。10年前(2010年)の169,602人と比較して減少している。今後も緩やかながら、減少傾向になる見込みである。年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少、老年人口は増加~横ばいになる見込みである。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。

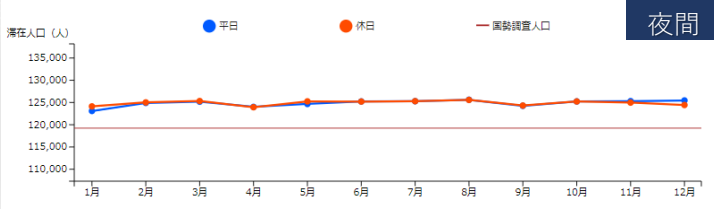
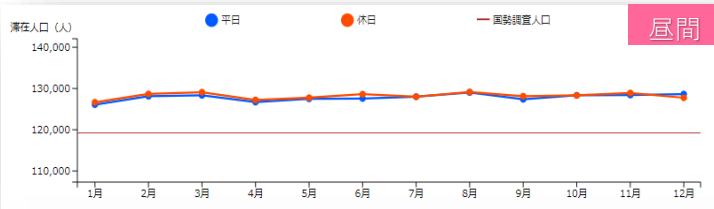
*人口マップ→人口構成→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年、2045年の人口ピラミッドは共に「つば型」である。老年人口の割合をみると、2020年の31.5%から2045年には36.0%まで増加する見込み。また、生産年齢人口は2020年の53.7%から51.0%まで減少する見込みである。



*人口マップ→人口構成→人口ピラミッド



*まちづくりマップ→滞在人口

滞在人口

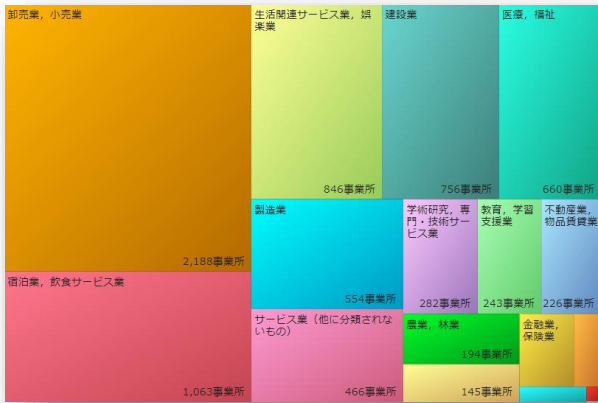
(2021年、上：昼間、下：夜間)

昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。平日の人口を見ると、昼間人口と夜間人口に大きな違いが見られないことから、他の市町村への通勤・通学者数(流出人口)と他の市町村からの通勤・通学者数(流入人口)が同程度であることがわかる。

※昼間は14時、夜間は20時のデータ

産業構造

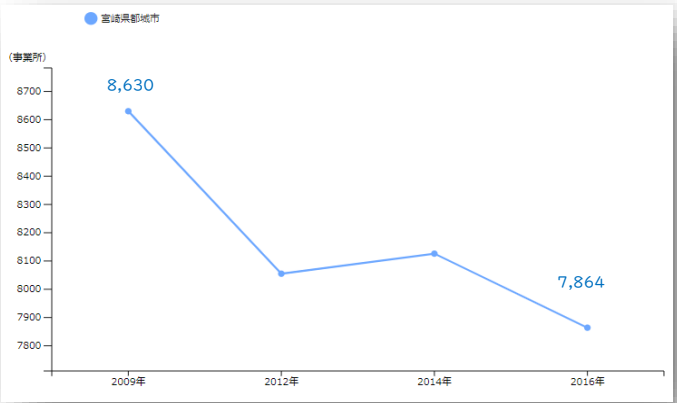
事業所数(事業所単位):7,864事業所



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造

事業所数(事業所単位) 大分類(2016年)

業種ごとの事業所数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の2,188事業所で、全体の27.8%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の1,063事業所13.5%、「生活関連サービス業、娯楽業」の846事業所10.8%が続く。

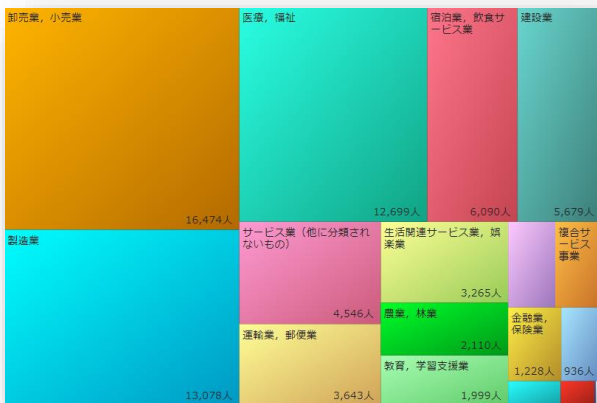


*産業構造マップ→全産業→事業所数

事業所数の推移

事業所数の推移をみる。2016年は7,864事業所。7年前の2009年と比較すると8,630事業所だったので8.9%減である。

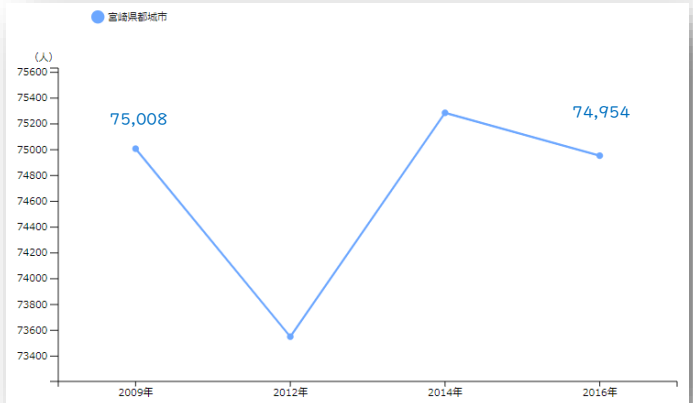
従業者数(事業所単位):74,954人



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造

従業者数(2016年)

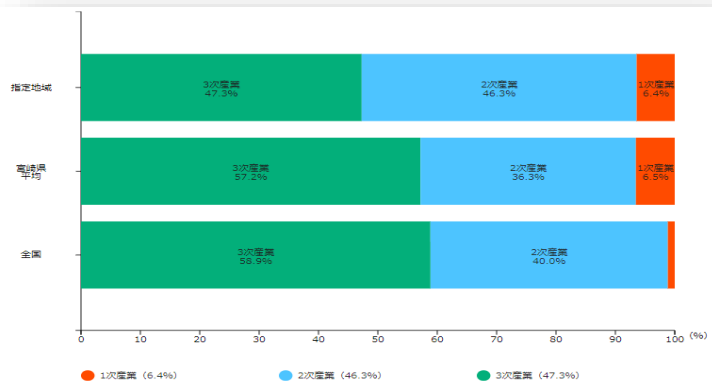
業種ごとの従業者数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の16,474人で、全体の22.0%を占めている。その後「製造業」13,078人17.4%、「医療、福祉」の12,699人16.9%が続く。



*産業構造マップ→全産業→従業者数(事業所単位)

従業者数の推移

従業者数の推移を見る。2016年は74,954人、7年前の2009年と比較すると0.1%減である。



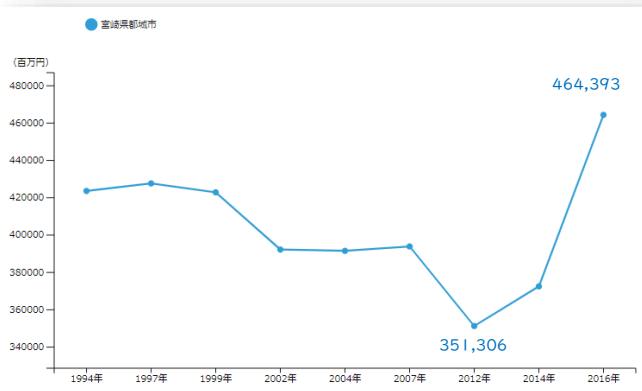
*地域経済循環マップ→生産分析

地域内産業の構成割合

都城市の産業の構成割合を全国および宮崎県と比較したグラフである。3次産業の割合が47.3%であり、全国の58.9%と比べて低い。一方、2次産業の割合は、46.3%と全国の40%に比べて高い。

*1次産業…農業、林業、漁業など
 *2次産業…製造業、建設業、工業など
 *3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、
 外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業

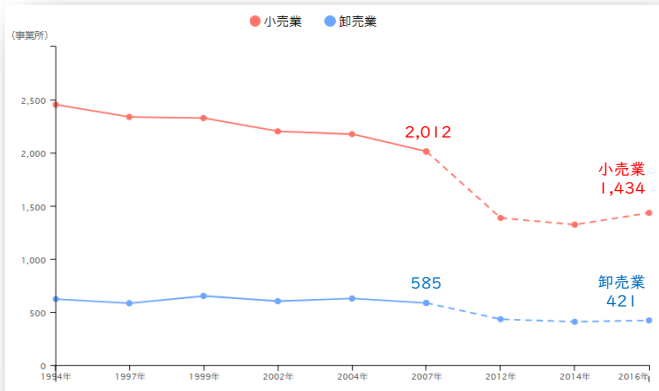


*産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

事業所数(小売業・卸売業)の推移

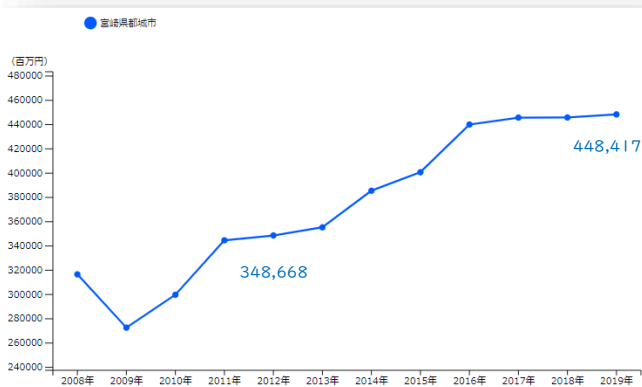
小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2016年の事業所数は、小売業1,434事業所、卸売業421事業所である。2007年と比較すると、小売業は28.7%減、卸売業は28.0%減となっている。

*グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。



*産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

製造業



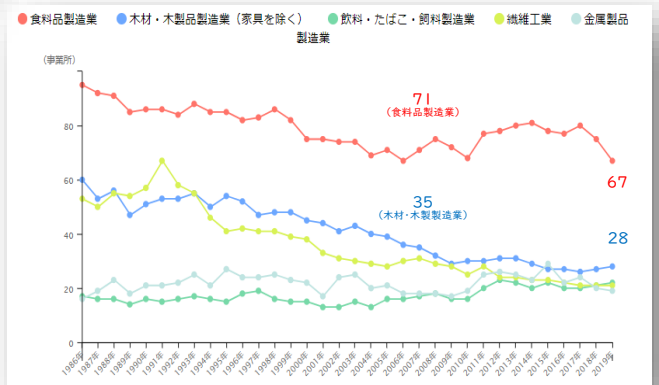
*産業構造マップ→製造業→製造品出荷額等

事業所数(主要製造業)の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。
①食料品製造業、②木材・木製品製造業(家具を除く)が多い。
2007年と比べると、①食料品製造業、②木材・木製品製造業(家具を除く)ともに減少している。

製造品出荷額等の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。2019年製造品出荷額等は、4,484億円である。2012年と比較すると3,486億円なので、28.6%増である。



*産業構造マップ→製造業→製造業の構造

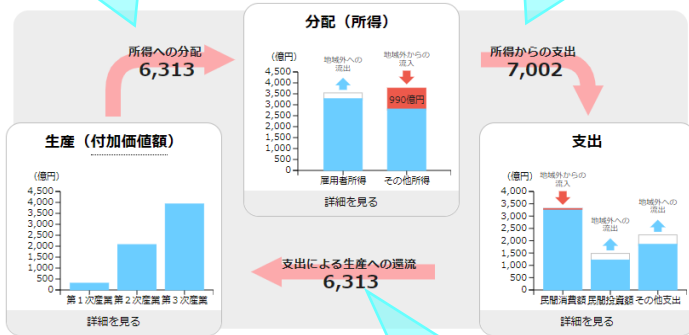
地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①都城市の企業は合計6,313億円の付加価値を生み出している。

②付加価値のうち、支出に回されるのは、7,002億円。市外からの流入があるので、付加価値額を超えている。



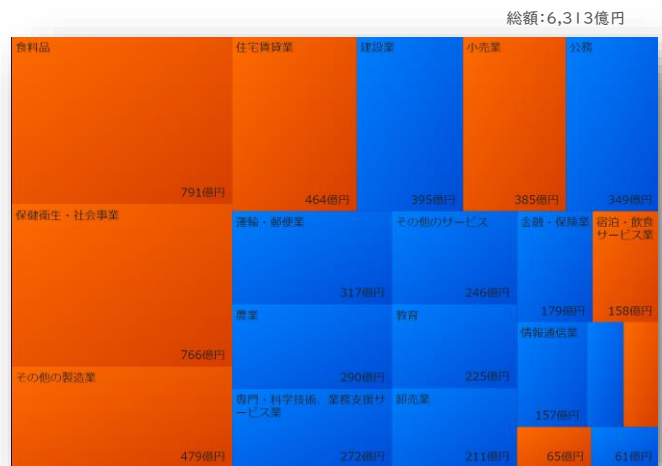
*地域経済循環マップ→地域経済循環図

③市内で支出に使われた金額は6,313億円。市外へ流出しているため7,002億円より少ない。

生産分析 (2018年)

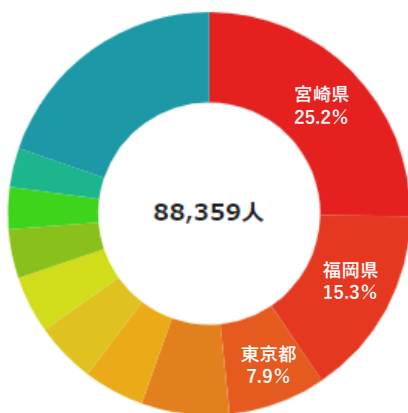
左図の「生産(付加価値額)」の内訳を面の大き気で示したグラフである。付加価値額が高いのは「食料品」「保健衛生・社会事業」「その他の製造業」である。

なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業(赤色)と地域外から必要としているものを調達している産業(青色)を表している。

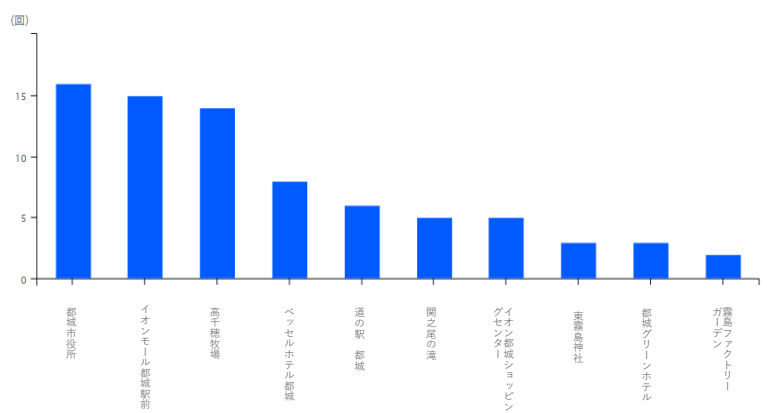


*地域経済循環マップ→生産分析

観光



*観光マップ→From-to分析(宿泊者)



*観光マップ→目的地分析

From-to分析(宿泊者) (2021年)

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合を示したグラフである。宮崎県が25.2%と最も多く、福岡県15.3%、東京都7.9%が続く。

目的地検索ランキング (2021年3月 休日)

カーナビで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「都城市役所」「イオンモール都城駅前」「高千穂牧場」の検索回数が多い。